

コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社 本郷工場温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社 本郷工場

(2) 事業所の所在地

〒729-0414 広島県三原市下北方1丁目3番1号

(3) 業種

清涼飲料水製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成 22 年度を基準年度とし、
平成 29 年度から平成 32 年度までの 3 年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

当社は、清涼飲料ビジネスにおいて地球環境にやさしい事業活動に努め、
環境負荷の低減を推進することにより、持続可能な社会の発展に貢献します。
また、地球温暖化防止については、温室効果ガスの排出抑制に努めます。

2 方針

- ・ 製造工程の省エネルギー推進、エネルギー使用効率改善
- ・ 資材の軽量化など、省資源化への取り組み
- ・ 森林保全活動の企画運営、周辺地域の環境美化活動への参画
- ・ 従業員へ環境に対する教育の実施

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成22年度	平成28年度
二酸化炭素	27,635	20,978

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
二酸化炭素	0	0

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
メタン	0	0
一酸化二窒素	0	0
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)	0	0

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2	0		0	0
非エネルギー起源CO2	0		0	0
メタン	0		0	0
一酸化二窒素	0		0	0
その他 温室効果ガス	0		0	0
温室効果ガス 実排出量総計	0		0	0
温室効果ガス みなし排出量	0	-	0	0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

(t-CO₂)/千ケース

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成22年度)			原単位 削減目標	基準年度 (平成32年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	27,635	23,838	1.16	24.1	20,355	23,200	0.88
非エネルギー起源CO2	0	0			0	0	
メタン	0	0			0	0	
一酸化二窒素	0	0			0	0	
その他 温室効果ガス	0	0			0	0	
総排出量	27,635	23,838	1.16	24.1	20,355	23,200	0.88
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	0.47	23.4	-	-	0.36
目標設定の考え方	28年度排出見込み量対比年▲1%の削減						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	重油使用量の削減	重油使用量30%削減	・コージェネ運用方法の変更（ピークカットを主な用途とする）
2	電気使用量の削減	電気使用量3%削減	・冷凍機の更新
3	都市ガス使用量の削減	都市ガス使用量4%削減	・ボイラー省エネタイプへの更新 ・排熱回収によるボイラー使用水の加熱
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

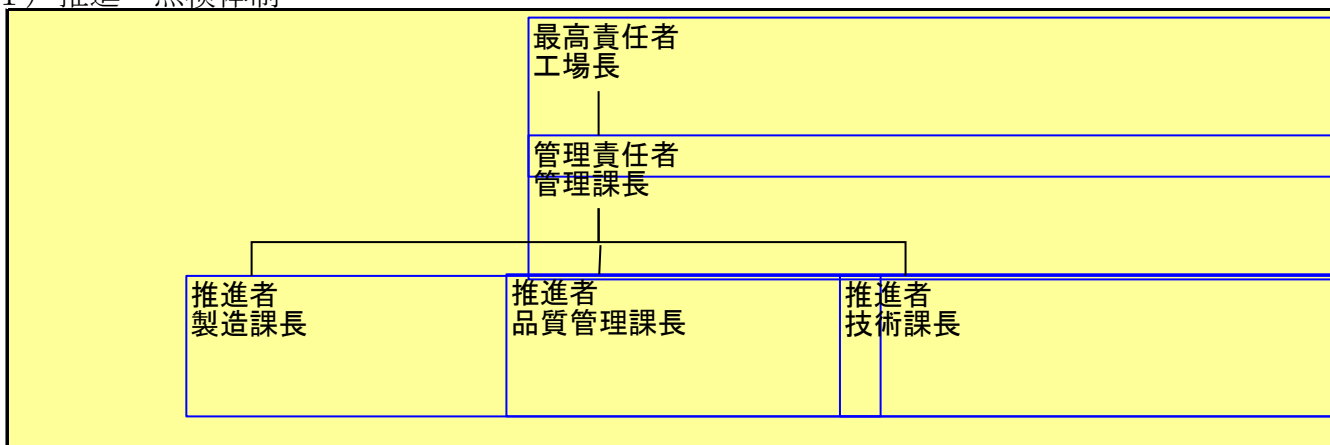
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	CIPプログラムの適正化	検証中	洗浄方法の最適化を図り、電力使用量の抑制に繋げる。
2	生産ロットの効率化	検証中	1生産ロットのボリュームを大きくすることにより、効率的なエネルギー使用に繋げる。
3	漏れ箇所の早期対応	検証中	配管の漏れによるエネルギーロスを無くし、使用量の抑制に繋げる。

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

工場長を最高責任者とし、管理課を中心として週単位、月単位、期単位で取組状況の把握、検証、問題点の検討を実施し、目標に対する乖離解消策の検討、実行、検証を継続的に実行する。

(3) 計画書等の公表

工場内へ掲示する。
また、エネルギー削減計画について会議で進捗を確認、必要に応じてリカバープランを検討する。

